

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、「学習活動（2項目）」「その他」の3領域で重点課題を決め、それぞれの達成目標を定めて取り組んだ。各重点課題に対する評価の概要は、以下のとおりである。

(1) 学習活動「家庭学習の定着」

児童生徒の実態や学習の理解に応じて、家庭で取り組む課題を提示したり、各自で学習計画表を作成したりするなど、学部に応じた取組を行った。家庭学習の取組率や計画達成率が8割を超え、家庭学習が定着した児童生徒が多く見られたが、定着したとは言えない児童生徒もいた。

(2) 学習活動「地域と連携した学習活動」

日頃の学習の成果を生かす機会として、地域の公民館活動等に参加・協力する形で交流に取り組んだ。公民館の高齢者向けの事業に、見学、参加・協力、レクリエーションの運営と、段階的に活動内容を高めて携わっていった。後半に実施したレクリエーションでは、授業で生徒が主体的に企画・準備したことを、多くの高齢者の前で発表・運営することができるようになった。

(3) その他「手指メディア（キューサイン、指文字、手話）への理解と技術の向上」

手指メディアに関する職員の理解と技術、関心についてアンケート調査を実施し、毎週金曜に職員打合せ後に、手指メディアを用いた表現の研修会を実施した。その結果、80%以上の教職員が分かる、できる、さらなる研鑽が必要であると回答した。

7 次年度へ向けての課題と方策

重点課題の目標は概ね達成することができたが、いずれの項目も定着や発展を図る必要がある。次年度の取組に向けた方策等については、以下のとおりである。

(1) 学習活動「家庭学習の定着」

定着できなかった児童生徒にも家庭学習に進んで取り組めるように、励みとなる仕組みや達成感が味わえるような取組、子どもの家庭学習に保護者が関わるような方策を検討していく必要がある。

(2) 学習活動「地域と連携した学習活動」

地域と連携した学習活動については、生徒自身の反応や地域の方々がどのように受け止められているのか振り返る必要がある。今年度の取組を検証した上で、次年度からの活動内容や評価方法を検討していく必要がある。


(3) その他「手指メディア（キューサイン、指文字、手話）への理解と技術の向上」

教職員の手指メディアの技術向上は、聴覚障害教育の専門性を高めていく上で必要であり、次年度も継続する。幼児児童生徒等への手指メディアの学習の機会の充実についても進めていく。

8 学校アクションプラン

平成29年度 高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	家庭学習の定着（小学部・中学部）
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成には家庭学習が必要不可欠であるが、その習慣が身に付いているとは言えない。 ・実態や発達段階によって、家庭学習（宿題や自主学習）の取組や学力の定着に差が見られる。 ・学習に対する自覚が高いとは言えず、自主的に勉強しようとする雰囲気が欠けている。 ・家庭学習（宿題や自主学習）の取組に対して、連携を図りにくい家庭がある。
達成目標	(小学部) 家庭学習の取組率 90% (中学部) 自らが立てた学習計画の実行率 80%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階や興味関心に応じた方法・内容で課題を提示し、家庭で宿題や自主学習ができるようにする。 ・児童の目標や取組状況が分かるように、掲示物や評価の工夫を行い、課題の提出率を高める。 ・発達段階に応じた家庭学習の方法を児童や家庭に紹介し、取組を双方向で評価できるようにする。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間の家庭学習計画を生活ノートに記入し、その取組状況を毎日記録する。 ・担任と計画の達成状況を定期的に確認し振り返ることで、家庭学習の定着を図る
達成度	83% (取組の観点：家庭学習の定着率、課題の提出率) <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着率 84% (児童5名 A:6、B:10、C:10、D:6、E:10) ・課題の提出率 82% (児童5名 A:7、B:10、C:9、D:5、E:10) <hr/> 65% (生徒5名実行率 A:83%、B:15%、C:72%、D:83%、E:71%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や学習の理解に応じた家庭学習（宿題・自主学習）を毎日提示し、継続的に取り組むことができるよう個別的な支援を行った。 ・提出された家庭学習に対して、すぐに教師がその評価を行い、結果をフィードバックさせて主体的に次の課題を提出するように図った。 ・児童に「家庭学習振り返りカード」、保護者に「家庭学習のすすめ」を配付、活用した。 ・それぞれの生徒の実態に応じた学習計画表を作成した。 ・学習の意欲を高めるために、全員が1つの教室に集まり朝学習を実施した。 ・定期テスト前は、普段よりも課題を多くし、長く家庭学習に取り組めるように図った。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に差があり家庭との連携を含め個別的な支援を必要とし、家庭学習の取組率を向上させるための観点（10段階評価）を設定した。各学級担任の課題の提示（宿題の量や形態、継続性）、児童の提出内容についてアンケートを実施。 ・10段階評価では、児童によって5から10までの開きが見られた。どの児童も年度当初より家庭学習が定着し、課題の提出率が向上したが、全体では83%であった。 C <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせ各自で学習計画表を作成させるようにしたところ、特定の教科に偏ることなく、計画を立てることができるようになった。 ・自ら計画を立てることで、家庭では時間を意識して学習を継続させることができた。 ・部活動を引退した3年生には、放課後に補習を実施することができ、家庭学習に対する意識が高まり、計画実行率が向上した。 ・全員で朝学習をする機会を設けて、生徒同士で学習に対する意識や意欲が高まるように努めた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に取り組んだ児童生徒に励みとなるような仕組みや達成感が味わえるような取組があると良い。 ・家庭学習に保護者がどのくらい関わっているか調査することや、子供の家庭学習に保護者が関わるような方策を検討することが必要である。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身が取組の見通しや実績を把握し、意欲的に取り組めるようにするための支援方法。 ・保護者への理解啓発と家庭学習の定着を目指した連携の工夫。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に家庭学習に取り組むための教材やプリント等の作成。 ・継続して家庭学習に取り組むための家庭との連携方法。

重点項目	学習活動（地域に開かれた学校づくり）
重点課題	地域と連携した学習活動（高等部）
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事では地域の方々との関わりを持つ機会があるが、聴覚障害と軽度知的障害の生徒が共生していることや生徒の実態、学習内容等については十分に理解されているとは言えない。また、生徒も日頃から支援をいただいている地域のことについて、あまり知らない。 ・福祉・サービス科（軽度知的障害）では福祉に関する基礎的なことを学習しているが、それを実践する機会があまりない。学んだことを校外で実践することによって、生徒は学習事項が身に付き、さらに意欲が高まると考える。
達成目標	公民館活動等を利用した地域活動 3回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公民館と連携し、生徒の学習成果を生かせる活動の場をもち、就労意欲や学習意欲を高める。 ・生徒の自己有用感が徐々に高まるように、段階的に活動を進める。 ・事後に振り返りをして活動を評価し、次の学習に生かせるようにする。
達成度	100%（4回実施）
具体的な取組状況	<p>（生徒：福祉・サービス科2，3年生「福祉」「家政」選択者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十二町島公民館と連携し「いきいきサロン」という高齢者の方の活動に4回参加した。 ・初回は見学、2回目は参加者として参加、3、4回目はレクリエーション運営という具合に段階的に活動を進めた。 ・レクリエーションの運営では、生徒が中心となって参加者の方楽しんでいただけるような企画を考え、準備、練習し取り組んだ。当日はレクリエーションを行った後、茶話会準備の手伝いもした。事後は、できたこととできなかったこと、次に頑張りたいことをまとめ、活動を振り返った。
評 価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段階的に活動を進めることで、生徒自身が主体的に取り組むことができた。 ・参加者の方に喜んでいただけたことで自己有用感が高まり、次の活動の意欲へとつなげることができた。 ・高齢者の方の特徴を考えてレクリエーションを企画するなど、学習したことを生かすことができた。 ・挨拶やレクリエーションの際の言葉掛けなど、場面に応じて適切にできるようになってきた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の成果を生かす良い取組であるが、生徒自身の反応や地域の方々の受け止め方がどうだったのか振り返ることが大切である。 ・地域との連携については、公民館に限らずそのような学習の成果を生かせる機会や場が増えると良い。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・達成目標設定の工夫が必要。生徒の満足度など取組内容に関するものにすべきである。 ・学習成果を発揮する機会としての地域との連携を更に充実する。

重点項目	専門性の向上	
重点課題	手指メディア（キューサイン、指文字、手話）への理解と技術の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指導の補助手段としてキューサインを使用すること、手話や指文字等を用いてコミュニケーションをとることは聴覚障害のある幼児児童生徒と関わる際には必要不可欠なものである。 ・聴覚障害教育における教員の経験年数は様々であり、関わる幼児児童生徒によっては指導の中で手指メディアを用いる機会も様々であるため、教員の手指メディアへの理解と技術はまちまちである。聴覚障害児を指導する学校として全体的な手指メディアへの理解と技術を均一化し更に向上させることが求められる。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手指メディア（キューサイン、指文字、手話）への理解と技術向上についての自覚 → 教員の80%以上 (アンケート実施) 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の聴覚障害教育におけるコミュニケーション手段について共通理解を図り、改めてキューサイン、指文字の表を配付する。 ・年度初めに自身の手指メディア（キューサイン、指文字、手話）への理解と技術についての自覚をアンケートにより調査する。 ・週1回職員朝礼後にテーマを決めて全教員が手指メディアを用いた表現を練習する機会を継続して持つ。(3分程度) ・2学期末にアンケートを実施し、個々の教員が手指メディア（キューサイン、指文字、手話）への理解と技術が向上したと思うか、改めて確認する。 	
達成度	80%以上 <ul style="list-style-type: none"> ・知識：質問3項目中3項目で「分かる」「だいたい分かる」の比率が向上 ・技術：質問6項目中4項目で「できる」「だいたいできる」の比率が向上 ・関心：質問1項目で「積極的に学びたい」「できれば早く身に付けたい」の比率が向上 → 全質問10項目中8項目で理解、技術、関心が向上 (別紙資料) 	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 手指メディア（キューサイン、指文字、手話）への理解と技術、関心についてのアンケートを実施。(6月) 2 毎週末の職員朝礼後に、手指メディアを用いた表現を練習する機会を持った。(一昨年度より継続して実施。今年度は1月19日現在で26回実施) <ul style="list-style-type: none"> ・本校の聴覚障害教育におけるコミュニケーション手段について共通理解を図った上で、改めてキューサイン、指文字の表を配布した。 ・職員のニーズに基づいた言葉について、手話や指文字、キューサインを用いた表現を練習した。(別紙資料) ・表現する練習に加えて、手話を読み取る練習も月に1回程度行った。 3 6月に実施したアンケートと同じものを実施(12月)し、結果を比較した。また、手指メディアの練習に関する教員の感想等も併せて確認した。 	
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・手指メディアへの理解と技術について80%の教員が向上したと自覚していることがアンケートより分かった。しかし、知識、関心の比率の向上に比べ、技術面の比率の伸びは低く、「使わないと忘れてしまう。定着が難しい。」と感じている教員もいる。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・手話は聴覚障害者にとって重要なコミュニケーション手段であり、今後も教職員の研修会を継続していくべきである。 ・幼児児童生徒等への手指メディアの学習機会についても、一層の充実に努めてほしい。 	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害教育の専門性、授業力の向上を図るための校内研修の継続。 ・知的障害に関する研修の充実。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)